

日本古来の武術とトライボロジー
は関係しますか？

日本古来の武術とトライボロジーは関係しますか？

Q:日本古来の武術とトライボロジーは関係しますか？

A:日本武術においてもっとも有名な人物は宮本武蔵である。宮本武蔵は巖流島で佐々木小次郎を倒したことで有名です。また、武術の教本である「五輪書」を残している。その書の中に以下の文がある。

* 太刀の持やうは、大指・ひとさし指を、浮けるやうに、中指は、しめずゆるまず、くすし指・小指を、しめて持つやうに、するなり。

これを現代語に訳すと

* 太刀の持ち方は、親指と人差し指を浮かせるようにし、中指は締めすぎず緩めず、薬指と小指の2本をしっかりと締めて持つものである。

になる。

この文とトライボロジーが関係する。この文が意味するところは手の握りは「**液圧**」が重要であるというものである。聞きなれない用語であるが、手のひらと刀の柄の間に一切の空気の間隙を作らず、ピタッと吸い付くように保持する。つまり、手のひらと太刀の間の接触面積を大きくしてと圧力分布が均等であると摩擦力が大きくなり太刀を自由に扱えることを意味し、トライボロジーと関係する。右図はこの太刀の持ち方を表している宮本武蔵像である。



下図は握りの部分を拡大した図である。親指と人差し指を浮かす心持ちにし、中指は程々、薬指と小指をしっかり締めている。すなわち、ギュッと握ってしまうと「液圧」にならない。またそれにつながる腕から肩、背中、足腰に力が入っていると「液圧」にならない。この武術・身体論の分野において身体や手を液体化させて圧力を伝える技術を「液圧」と名付けたのは、運動科学者であり、我が師匠である武術研究家の高岡英夫（たかおか ひでお）師範である。以下に師範の弟子のレーシングドライバーのクラゴン（ドライバー名）との会話の一部を掲載する。

クラゴン おっしゃる通りで、まずはズバリ「脳疲労解消力アップⅡ」ですね。そしてやはり「剣聖の剣 宮本武蔵」から得ていることは、山ほどあります。今年のボクのゆるトレーニングは、「剣聖の剣 宮本武蔵」を抜きにしては語れません。

高岡 そうだろうな。なにせ「剣聖の剣 宮本武蔵」では、徹底的に剣の握り方（「液圧」という握り方）を教えているからね。あの握り方はそのままステアリングの握り方だから。

<https://www.ultimatebody.jp/11kuragonP7.html>

このように剣術1つとってもトライボロジーと深く関係していることを理解いただけたのではないのでしょうか。

